

1 7. 周年親子放牧導入マニュアルの策定

農林水産研究指導センター畜産研究部飼料・環境チーム・¹⁾西部振興局・²⁾中部振興局
○衛藤央好・鳥羽菜摘¹⁾・藤田和男²⁾・堀元司

1 はじめに

本県では土地条件を最大限に活用した「おおいた型放牧」を推進している。放牧は様々な形態で行われているが、県北部地域を中心に普及している周年親子放牧は全国でも先進的な取組として紹介されてきた。

一方、農研機構を中心として平成28年度に立ち上がった周年親子放牧コンソーシアムでは、肉用子牛の生産基盤の確保を主眼にしつつ耕作放棄地の解消、担い手創出の新たな手段として周年親子放牧に着目し、本県を含む全国13組織の連携による研究が行われ、令和3年3月にはその結果を取りまとめた「周年親子放牧導入マニュアル」（以下、「マニュアル」という）が策定された。

2 マニュアルについて

マニュアルは、AIやICTを活用した周年親子放牧による収益性の高い子牛生産技術の開発に関連する成果を取りまとめたものであり、周年親子放牧の特徴を子牛の生産面と営農面から解説した「入門編」、計画立案から放牧開始までの流れとその後の管理について解説した「基本技術導入編」、周年親子放牧に有効な新技術を解説もしくは紹介する「新技術解説編」の3部構成になっている。

特に、「基本技術導入編」では、営農計画の立ち上げから、放牧の方法論、草地管理に至るまで事細かに解説されており、まさに放牧経営を開始するためのマニュアルとして活用できる。また、「新技術解説編」では、周年親子放牧導入支援システムや牧草作付け計画支援システムといったソフト的なシステムその他、放牧牛体重計測システムや個体識別遠隔自動給餌システムのようなICTを活用した先進システムまで、10項目の新技術が紹介されている。

マニュアルは、冊子のほか農研機構のホームページで公開されている。

3 今後の展望

マニュアルは、放牧方式での経営開始を志向する新規就農者やこれから周年親子放牧に新規に取り組む農家に対しての指導ツールとして非常に有効であると考えられ、普及においての活用をお願いしたい。

また、「新技術解説編」における放牧牛体重計測システムや遠隔自動給餌システムといった先進技術をいかに現場レベルで有効活用していくかが課題となると考えている。当部においても、ICTを利用した放牧に関わる課題を検討しており、本マニュアルに掲載された新技術を参考にしながら、試験を実施していく予定である。

本発表の内容は、農研機構生研支援センター「革新的技術開発・緊急展開事業（うち人工知能未来農業創造プロジェクト）」の支援を受け、「周年親子放牧コンソーシアム」が実施した「AIやICTを活用した周年親子放牧による収益性の高い子牛生産技術の開発」に基づいている。